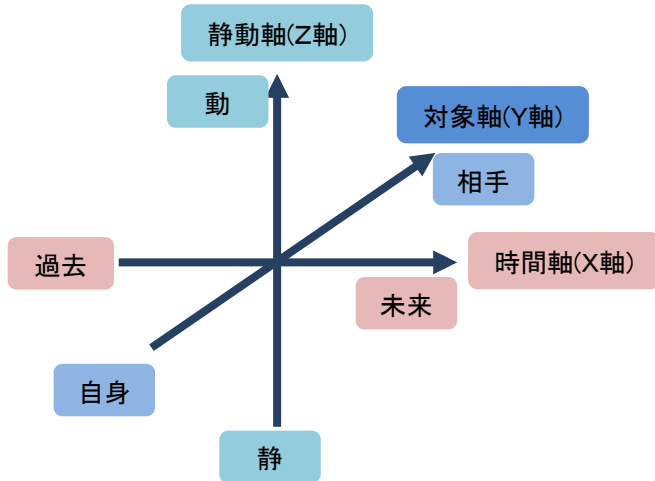


思考・行動・表現の方向

優秀な人材と優秀でない人材を比較し、思考と行動を観察する。
 優秀な人材は未来を向いている。成果をあげるために市場を、社会を
 見て、考えて、他の者と行動ができるようにしている。
 優秀ではないとされる者は、第一に自らが率先して動きにくい。仮定
 での成果を語る。自身を語る。自身の過去を語る。
 軸が三つ交差する。時間軸、対象軸、静動軸である。



未来を見て、相手を考え、共に活動できる状態が最も活性化する。これを第一象限とした。その逆が、自身の過去を振り返るのみとなる。第七象限である。意見を言わず、内にこもるとモチベーションが下がる。

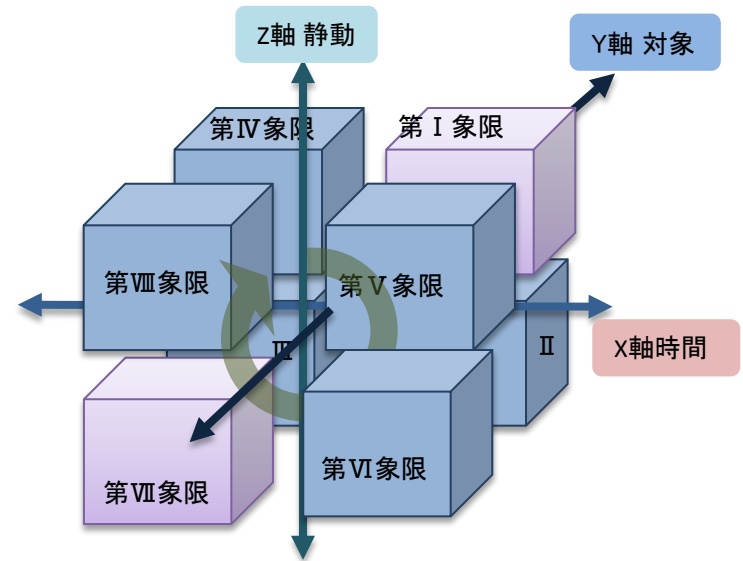
第二象限は、未来を見て、外を見ているが、共には動かない。または、自らも動かない。しかし、思考が高められる場合が多い。もしくは、活動の方法が見つけれられていない場合もある。

第三象限は、相手を見るが、過去を見て、動かない。常識、過去を基準にした批判になりやすい。

第四象限は、相手を見て、共に活動をする。だが、過去を基準にする。悪くはないが、進歩がさえぎられる。現在の延長線上での活動となる。少し、進んで改善へと動く可能性がある。

第五象限は、未来を見て、共に活動するが、自身を軸にする。悪い方向に動く強引になる。柔軟性に欠ける場合がある。

第六象限は、未来を見ているが、自身が基準になり、動かない。良いように解釈すれば、機会を待っているのかもしれない。



第八象限は、過去を基準にして、自身のために活動する。進歩のない独りよがりになる。

第二、第四、第五は、三つの軸のうち二つが正へと動いている。成長意識が強ければ、第一への移動がある。

意識だけではなく、下記の項目等が、三つの軸で混合されている。

概念項目		時間軸(X)	対象軸(Y)	静動軸(Z)	象限
意識	正	未来	相手	動	第一象限
	負	過去	自身	静	第七象限
知識	正	形式知	顕在知	活性知	第一象限
	負	暗黙知	潜在知	不活性知	第七象限
認識	正	敏感	実像	仮説	第一象限
	負	鈍感	虚像	定説	第七象限
価値	正	創造	思索	拡大	第一象限
	負	縮小	衝動	維持	第七象限
表現	正	未来	外言	深層	第一象限
	負	過去	内言	表層	第七象限
目的形成	正	期待・夢	外界	遅効	第一象限
	負	現実	内界	即効	第七象限